

Kビジョン放送番組審議会（2019 年 12 月 24 日）

放送番組審議会(第 22 期第 1 回会合)では、『タウンニュース～特集・西日本豪雨から 1 年』、『K ビジョンスペシャル 地域の伝統をつなぐ～周防柱松～』を合評しました。

<合評番組>

■**タウンニュース～西日本豪雨から 1 年（4 回シリーズ/計約 30 分）**

2019 年 7 月 1 日(月)～4 日(木) 放送

西日本豪雨から 1 年が経過した時点に合わせ、被災地の 1 年間の変化や現状、課題について専門家や被災者への取材を通して検証しました。

テーマ；①周南市樋口(土砂災害で死者 1 名)の現状、教訓

②下松市笠戸島で逃げ遅れゼロに向けた「避難行動の促進」など計 4 つ

■**K ビジョンスペシャル 地域の伝統をつなぐ～周防柱松～（20 分）**

2019 年 8 月 26 日(月)～30 日(金)放送

西日本豪雨災害の影響で昨夏、2 年ぶりに行われた光市周防地区の伝統行事「周防柱松」。柱松保存会の会長を追ったドキュメンタリー番組として、準備から当日の様子までを取材し、柱松にかける想いに迫りました。

<合評内容>

■**タウンニュース**

- ・被災した住民の復興・防災に向けてとりくむ様子、行政との連携・対応の姿勢についてまとめられていて、わかりやすい内容だった。
- ・災害時は自助が最も重要になってくるということを改めて感じた。
- ・全体的に分かりやすくまとめられている。子どもと一緒に見て話しながら、これからの防災について考える機会になった。
- ・番組内で使われている音楽がおどろおどろしい感じの内容で、見ていて怖くなり集中力が切れてしまった。
- ・専門家(三浦房紀山口大副学長)の解説が入り、わかりやすいと感じた。ただ、まとめの部分などでフリップやCGなどビジュアルで訴えるものがなく、重要な点が頭に残りにくい。ビジュアルでまとめて見せる工夫があるとよい。
- ・4 回のシリーズ内容で各地の現状を紹介していたが、最終回として全体を総括する内容があるとよかった。時系列でロードマップのような内容や、メリット・デメリットの比較ができるとより伝わりやすい。
- ・各被災地でキーマンとしてとりくんでいる人を紹介し、復興や防災に向けてとりくむエネルギーを感じることができた。

- ・「限界集落」や「かすみ堤」といった専門用語的な言葉が出てくるが、一般の人には意味が伝わりにくい。別に解説があるとよかった。
 - ・土砂崩れが起きた地域のハザードマップや、下松市笠戸島地区の上空地図など図説や地図で紹介があると把握しやすい。
 - ・いざという時のことを考え、地元の人にカメラを預けたり、スマートフォンのカメラなどで動画をアップしてもらおうなど、リアルタイムで状況を伝えてもらう方法を考えてみてはどうか
- 等のご意見をいただきました。

■Kビジョンスペシャル～周防柱松

- ・自然と祭りの内容に引き込まれていくほど楽しんでみる事ができた。祭りをテーマにしながら、前年の水害の状況や、復興に向けてとりくむ会長や地域の人たちの様子が伝わってきた。
 - ・番組に出ていたのはほとんどが男性だった。女性の関わりも見えてくると、さらに盛り上がる内容となったのではないかな。
 - ・各地でこうした行事を続けることが難しくなっている現状を聞いているので、祭りを続けていくために取り組む側面なども合わせて見られるとよかった。
 - ・会長や地域の人たちの動きを黙々とカメラでとらえているのが、見ていて好感が持てる。演出を加えることなく、インタビューと現場の音声だけで作るほうが、視聴者には自然と番組に入りやすい。素直に好感のもてる番組だった。
 - ・歴史的背景についてはイラストなどを使って詳しく紹介が入るとよかった。
 - ・火の粉が舞うシーンをスローモーションで見せたり、ラストのシーンといった迫力ある映像効果は、長年にわたって取材していないと思いつかない。カメラアングルも多面からとらえ、楽しく見る事ができた。
 - ・番組から会長の生きざまをうまくとらえていると感じた。祭りの参加者や子どもたちの声が聞けるとさらによかった。
- 等のご意見をいただきました。

出席者は、徳永豊委員長、なかはらかぜ、西岡雅宵、友田隆、佐野三和子の各委員、社側から杉田昌士代表取締役社長、矢田民也専務取締役、ほか放送制作部員6名でした。